

シマムセンオーディオ試聴会 (2018.9.20)  
—TAD 新製品スピーカー・パワーアンプ試聴会—

1. はじめに

シマムセンで開催された TAD 新製品スピーカー・パワーアンプ試聴会に行ってきました。

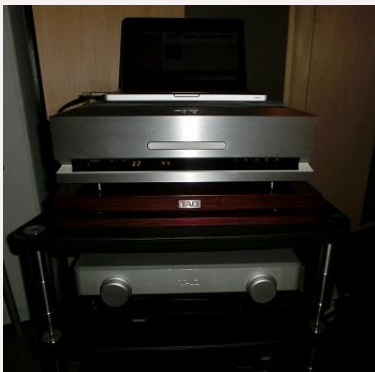
2. 使用機器

スピーカー：TAD-E1TX

パワーアンプ：TAD-M1000

The image is a promotional banner for a TAD audio equipment listening session. It features the TAD logo (Technical Audio Devices Laboratories, Inc.) on the left. The main title is '新製品スピーカー・パワーアンプ試聴会' (New Product Speaker & Power Amplifier Listening Session). Below the title, two products are showcased: the TAD-E1TX, a 3-way balanced floor-standing speaker, priced at ¥2,200,000 (tax included), and the TAD-M1000, a 2-channel power amplifier, priced at ¥1,350,000 (tax included). The event details are listed at the bottom: '10月20日(土) 15:00~17:00' (October 20th, Saturday, 15:00-17:00), '講師:メーカー担当者' (Instructor: Manufacturer Representative), and '会場:CYMA 2F試聴室' (Venue: CYMA 2F Listening Room).

日時	2018年10月20日(土) 15:00~17:00
場所	CYMA (シマムセン別館) 2F イベントルーム
講師	各メーカー担当者
内容	TADの新製品「フロア型スピーカーTAD-E1TX」 「2ch パワーアンプ TAD-M1000」の試聴会を メーカー担当者を招いて開催いたします。
試聴用 機材	フロア型スピーカー TAD-E1TX 2ch パワーアンプ TAD-M1000 他



当日のセッティング

### 3. 試聴の経過

新製品以外の使用機器は次のとおりです。その他、オーディオボード、インシュレーター、ケーブルなど、すべて TAD 製品が使用されました。

デジタルプレイヤー D1000Mark2

プリアンプ C2000

上記の TAD-M1000 は 2 台準備されており、1 台使用のあと、バイアンプで 2 台接続も行われました。

説明の方は、TAD の歴史から始まり、前半はアンプ、後半はスピーカーについて詳細な解説がありました。音源は主として SACD が使用され、一部 PC からのファイル音源の再生もありました。

最初に女性ボーカル、ついで男性ボーカルがかかりましたが、クリアーで見通しがよく、ディテールの再現に優れた音のように感じました。

次は、ファイル音源の幻想の 5 楽章がかかりましたが、オーケストラの各パートの

分離や打楽器の明晰さはあるものの、弦や木管の表現には硬さが感じられました。ここで、パワーアンプを2台使用し、バイアンプ駆動に替えたところ、濁りが取れ、一層クリアーな音になりました。

次にグールドの平均律で、古い録音と晩年の録音が比較されましたが、演奏の違いや、特に後者でのハミングは明晰に捉えられていました。

次のギター伴奏のギル・シャハムのシューベルトのセレナーデは、意外と言っているほど、ギル・シャハムのストラディヴァリウスの音色が人工的なものに聴こえ、生演奏で聴くヴァイオリンの音色とかけ離れて聴こえました。

この後、フュージョン系の音楽と女性ボーカルが続けて2曲かかりましたが、音の切れ、立ち上がり立ち下りの制動、低音の締まりなど、このスピーカーの特性とアンプのバランス駆動の制動力が発揮された結果になりました。

#### 4. まとめ

技術的に詰められた製品であり、音にもそれが現れていましたが、一部クラシックでは生演奏の音とかけ離れたところがあり、スーパーツイーターの倍音領域の再生特性の問題なのか、デジタルプレイヤーの音を反映しているかは分かりませんでした。

以上